

オンラインの会議や研修、交流会に挑戦

- コロナ禍で、交流するつどいやカフェの中止や人数制限により、回数、参加者数ともに半減。会報の発行は維持。ホームページの訪問者数は増加。“電話相談”も相談員の努力で維持・継続し、相談件数は増加。
- 全国総会や支部代表者会議、ブロック会議、理事会など、これまで参集して開催していた諸会議や全国研究集会や研修会もオンラインで実施。
- 支部世話人は高齢の方が多く、インターネットなどITには不慣れな方が大半だが、つどいや世話人会など対面での実施が困難になる中、新たなつながる手段として、オンラインの導入に挑戦しようという支部も増えてきた。
- 本部からは助成金を活用してパソコンや周辺機器、有料ライセンスなどを配布。独自の「Zoomマニュアル」を作成し、練習会も定期的実施。
- 今では、オンライン研修会に支部から200名以上が参加、サテライト会場を設けたり、少人数に分かれてオンライン上でのグループワークも可能に。

ITの活用による活動の成果と課題

- 直接参集し、対面で語り合うことに優るものではなく、画面を通しての会話や交流には、多くの方が物足りなさを感じている。
- 施設でのリモート面会や遠距離介護での見守りなど、コロナ禍の中で、直接会うことの代用手段として活用が飛躍的に進んだ技術の成果を、情報弱者と言われる高齢者や家族が享受できるようにしなければならない。
- インターネットなどによるコミュニケーション技術については、まだまだ必要とする人誰もがその技術を利用できているとは言えず、今後も丁寧な支援を続けていく必要がある。
- これまで、時間的、距離的制約で、直接集まる交流や研修に参加できなかった人たちや、周りに同じような悩みを抱えた仲間が見つけれなかった人からは、新しい参加スタイルの可能性が期待されており、コロナ後も参集とオンラインを併用した「ハイブリッド方式」での実施が求められている。